

利用者の年齢層では、更生施設だけが他の施設に対して20歳から39歳までの年齢層が少なく、40歳から64歳までの年齢層が多い傾向が見られた。入所施設と通所施設の性格又は役割の違いの影響であろうが、そういう意味ではもっと差があっても良いのかもしれない。また、65歳以上の年齢層がきわめて少ないのがどの施設においても特徴となっている。但し、平成12年度の日本知的障害者福祉協会の全国知的障害施設実態調査報告では、入所更生施設の65歳以上男子が4.14名、女子が5.84名となっており、今回の調査結果は、概ねそれに近い数字になった。通所施設に65歳以上の利用者が少ないのは理解できるが、入所施設にも男女とも4～5名前後と非常に少ないのは、どのような原因によるのであろうか。利用者の高齢化が話題になり、研究テーマにもなっているが、実際に高齢化に対応する職員の資質を考えると、この実態も一つの参考にはなりうるだろう。

③職員の資格について

前掲図3に見るように、現に知的障害者施設で勤務している職員の資格でいちばん多いのは、社会福祉主事である。職員の実数は回答してもらえなかった施設が9施設あったことから正確ではないが、回答施設の実数の合計は4630人であった。この内社会福祉主事が1300人程度いるということは、短大・大学等で教育学、心理学、社会学、法学、経済学等を学んだものが職員の3分の1はいるということになる。但し、他の資格を含めて、採用の条件としているかどうかについてはこの調査では不明である。

障害者福祉では必置とされていない保育士の資格保有者が、社会福祉主事について多いことは、保育士の養成課程において実習等で知的障害者に接する機会があるためであろうか。

また、小中学校教諭免許保持者は1割近く在職しており、大学卒業者の就業と連動していることを伺わせる。制度施行後10年を超える社会福祉士および介護福祉士については社会福祉士が177人で3.82名、介護福祉士が285人で6.16名在職していることが分かった。この後述べる望まれる資格やスーパーバイザー、地域福祉関連の職員像と比較していきたい。

次に職員に望まれる資格については、結果で述べたとおり社会福祉士が突出して多くなっているが、これは、他の質問と勘案すると地域福祉におけるコーディネーターをイメージするか又は漠然とした職員の質の担保のための希望と考えられる。日本知的障害者福祉協会で行っている知的障害援助専門員がこれに続いているが、基礎講習を受けることによって社会福祉士同様職員の質向上を願っていることは伝わってくる。

資格については以上の通りであったが、資格以外の要素については、結果で示したように、協調性という人柄の部分への希望が多かったほか、療育援助技法がこれに続いている

のは、行動障害への対応等で苦慮していることの表れであろう。リーダーシップがこれに続いているのは組織運営を意識した結果であろうが、指示をきくが少ないのはこのこととは符丁が合わないことになる。PT,OT等の専門職は優先度が低い方で選択されてはいるが、社会福祉士に比べれば、専門性を意識した希望と見ることができるだろう。

④スーパーバイザーについて

スーパーバイザーが明確にされている施設は回答施設中の45.78%を占め、その他と答えたところも何らかのスーパーバイザーにかわるシステムを用意しており、今後明確にするとした施設も加えると約7割がスーパーバイザーを意識して運営していると判断できる。前の問いで資格以外の要素としてリーダーシップをあげたところが多かったこととも対応している。

現にスーパーバイザーをおいている施設における、スーパーバイザー自身については、約半数が管理職であること、資格としては、結果の欄で述べたとおり社会福祉主事が最も多く、ついで一般の職員では4番目であった社会福祉士が2番目になっている点が確認できた。

スーパーバイザーに必要な資格を聞いた問いに対する答えは、社会福祉士が優先度1位でも、優先度3位までの合計でもいちばん多く、知的障害援助専門員がそれに続いていることは、一般の職員への期待度と同様であるが、スーパーバイザーに対してはより多くの知見が求められるという意味では妥当な結果であろう。また臨床心理士が合計で3番目にあがっているが、行動障害等への対応方法を指示・指導できる人を望んでいることの現われであろう。なお、一般職員に対する望まれる資格では、合計で3番目であった介護福祉士が5番目になっていることは、直接援助職員の力というよりはスーパーバイザーへの期待は指導力であることと対応している。

⑤職階制と現任訓練について

職階制についての問いでは、年功序列によるものが3割近くあったが、能力評価によるとするものが45.4%と大変多く、近年の能力主義の影響が出ているのかと思わされる。そして、他の質問では資格が必要と考えている施設が多い割には、資格が職階制に影響するということは7.98%と非常に少なく、資格はあっても能力がなければ評価されないことを表わしているようである。

現任訓練・研修については、結果の欄で述べたとおり半数を超える68.05%の施設が予算化して外部で研修を受けさせているとしており、職員の資質向上には積極的な姿勢が伺えた。

現任訓練・研修の内容についての希望では、介護・接遇サービスをあげたものが優先度1位でも、優先度3位までの合計でも多かった。これは近年の福祉サービスの考え方が利用者中心に変化してきて、その対応を考えた上でのことと思われる。次に優先度1位では

療育・援助技術が、優先度3位までの合計では個別援助があげられているが、これも、様々な行動障害への対応が必要になっていることと個別支援の必要性が支援費制度でもうたわれていることによるのであろう。障害理解については優先度1位としては3番目であるが、優先度2位、3位ではほとんど選ばれていないところを見ると、選ぶ以上は優先度の高いところであるということを表わしている。その他に、優先度では3位であるが危機管理のポイントが大変高いのも、新しい制度に向けての動向と無関係ではないだろう。

⑥地域福祉に関連する事項について

地域福祉に関連する事業の実施状況は結果欄で示したとおりであるが、各施設が実際に取り組んでいる事業では、短期入所事業が最も多く、ついでグループホームとなっているが、短期入所事業では今後もと取り組むとした数は多くなく、グループホームでは今後取り組むとしている数も大変多い。これらの理由としては、制度として確立していること、取り組みやすい事業であること、ニーズがあること等が考えられる。しかし短期入所について、今後の実施予定が少ないのは、かなり飽和状態に近づいているということであろうか。施設種別の事業実施状況については結果の欄で説明したとおりである。

地域福祉に関連して職員に望まれる資格は、やはり社会福祉士がいちばん多く、知的障害援助専門員や社会福祉主事がそれに続いている。次の質問の資格以外で学んでほしい事項では、優先度1位でも優先度1位から3位までの合計でも多かったケアマネジメントやこれに続く制度・施策について、また個別援助が、優先度2位、3位で多くのポイントが入って合計で3番目に多くなった。両者を対応させると、地域福祉には資格としては社会福祉士や知的障害援助専門員が望まれ、この人たちにはケアマネジメントや制度・施策に精通していること、個別援助に理解があることが求められていることになる。

結果欄で示したように、その他の意見として、資格だけではないという趣旨の記述が多かった。職員の人格等の重視は、全体を通した意見の中でも多くいわれていることであるが、人格や人間性は、資格や知識・技術の土台になるものであって、資格や知識・技術が不要であるはずはない。人格や人間性は一養成機関あるいは研修の機会だけで、短期に養成できるものではなく、幼少時から一生をかけた教育の中で培われるものであろう。

5. まとめ

知的障害施設へのアンケート調査は、回収率55.7%とやや低調で、全般的に職員養成への関心は強いとはいえない。しかし他方では、強度行動障害のケアや知的障害高齢者の支援、個別支援計画の立て方など、専門性やニーズへの対応の必要性を施設側から求める声も多く、全体として養成や研修への関心が資格などの具体性に集約されない状況にあることが窺われる。これは、施設管理者が必要と考える資格の第1位が「社会福祉士」

であることと、現任研修の参加者が行動障害、自閉症、高齢者、地域生活など具体的、専門的研修を希望することとの差にも現れる。つまり、漠然とした質的底上げや地域コーディネートのニーズと具体的、専門的技術のニーズの双方が境界なく必要と感じられていると推測された。保護と自立更生が混然とした入所主流のままの日本の特性の反映であろう。

付 調査票

(別紙)

施設における、職員の資格等に関する調査

※施設長または、管理・運営責任者の方がご記入ください。

(但し、平成13年度実績を調査するため、平成14年3月末日現在でご記入ください)

記入者名 ()

記入者職種 ①施設長 ②指導部・課長 (含む：療育部・課長など)

③その他 ()

I 貴施設についてご記入ください。

施設名 ()

設立主体 ①社会福祉法人 ②事業団 ③都道府県区市 ④その他 ()

運営主体 ①社会福祉法人 ②事業団 ③都道府県区市 ④その他 ()

施設種別 ①入所更生施設 ②通所更生施設 ③通所授産施設

職員数 (実人員) () 名

貴施設の入所定員は何名ですか 定員 () 名

現在員は何名ですか、年齢・男女の別でご記入下さい。

| | 20歳未満 | 20歳～ 39歳 | 40歳～ 64歳 | 65歳～ 79歳 | 80歳以上 |
|---|-------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 男 | | | | | |
| 女 | | | | | |

程度別の人数についてご記入ください。(IQで分類することは、望ましくないと考えられますが、適当な分類方法が確立されておらず、新しい程度区分も不明なためIQを目安とします。なお、測定不能は最重度に、不明の方は概ね推定される分類でご記入ください)

| 性別 | 最重度 (IQ20以下) | 重度 (IQ21～35) | 中度 (IQ36～50) | 軽度 (IQ51以上) |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 男 | | | | |
| 女 | | | | |

II 施設職員の資格についておたずねします。但し職員とは、直接処遇職員または心理士・療法士等として直接利用者に対応する職種、及びこれらの職員を指揮監督する立場の職員をさします（以下同様です）。

1. 貴施設の職員には、次の資格を持った職員がそれぞれ何名いらっしゃいますか。

（重複回答可＝同一人が複数の資格をお持ちの場合は、資格の数だけカウントしてください）

- ①保育士 名
- ②知的障害者福祉士 名
- ③介護福祉士 名
- ④社会福祉士 名
- ⑤社会福祉主事 名
- ⑥知的障害援助専門員 名
- ⑦臨床心理士 名
- ⑧PT（理学療法士） 名
- ⑨OT（作業療法士） 名
- ⑩小・中・高校教諭（どれか） 名
- ⑪養護学校教諭 名
- ⑫その他（ ） 名

2. 今後、職員にはどんな資格が必要でしょうか、一番必要と思われるものから順に3つを選んで、その番号を右の回答欄に記入してください。その他を選んだときはその番号⑭を回答欄に記入し、資格名を1つだけ下の括弧内にご記入ください。

※ 回答欄が、①～⑬のいずれかで埋まったときは⑭は書かないようにしてください。

- ①高卒 ②一般短大・大学卒 ③保育士
- ④社会福祉主事 ⑤介護福祉士 ⑥社会福祉士
- ⑦知的障害援助専門員 ⑧ヘルパー（1・2級）
- ⑨小・中・高校教諭 ⑩養護学校教諭 ⑪臨床心理士
- ⑫PT（理学療法士） ⑬OT（作業療法士）
- ⑭その他（ ）

| 回 答 欄 | |
|-------|------|
| 順 位 | 項目番号 |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |

3. 今後、職員を採用するにあたって、資格以外の要素としてどのようなことを身につけていて欲しいと思いますか。一番必要と思われるものから順に3つを選んで、

6. 今後スーパーバイザーを配置するにあたって、どのような資格があればよいと思いますか。一番必要と思われるものから順に3つを選んで右の回答欄に記入してください。その他を選んだときはその番号⑭を回答欄に記入して、下の括弧内にその資格名を1つだけご記入ください。

※ 回答欄が、①～⑬のいずれかで埋まったときは⑭は書かないようにしてください。

- ①高卒 ②一般短大・大学卒 ③保育士
 ④社会福祉主事 ⑤介護福祉士 ⑥社会福祉士
 ⑦知的障害援助専門員 ⑧ヘルパー（1・2級）
 ⑨小・中・高校教諭 ⑩養護教諭 ⑪臨床心理士
 ⑫PT（理学療法士） ⑬OT（作業療法士）
 ⑭その他（ ）

| 回 答 欄 | |
|-------|------|
| 順 位 | 項目番号 |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |

7. 貴施設では、職階制と資格との関係はどのようになっていますか。
- ①一定年数勤務したものを上の役職に就けている（年功序列による）
 ②何らかの有資格者を上の役職に就けている
 ③資格や年功に関係なく、能力評価によって上の役職に就けている
 ④その他（ ）

II. 現任訓練や研修についておたずねします。

1. 現在貴施設で勤務されている職員の現任訓練はどうされていますか。どれか一つで○をつけてください。⑤その他を選んだときはその内容をご記入ください。

- ①施設内で計画して実施しているだけ
 ②予算化して外部研修等を受けさせている
 ③予算化していないが、研修には時間を与えている
 ④特に実施していない
 ⑤その他（ ）

2. 職員の現任訓練では、今後どんな項目について学ばせたいと思いますか。

一番必要と思われるものから順に3つを選んで右の回答欄に記入してください。その他を選んだときはその番号⑨を回答欄に記入して、下の括弧内にその内容を

2. 今後、地域福祉を担当する職員にはどんな資格が必要でしょうか、一番必要と思われるものから順に3つを選んで、その番号を右の回答欄にご記入ください。その他を選んだときはその番号⑭を回答欄に記入し、資格名を1つだけ下の括弧内にご記入ください。

※回答欄が、①～⑬のいずれかで埋まったときは⑭は書かないようにしてください。

- ①高卒 ②一般短大・大学卒 ③保育士
- ④社会福祉主事 ⑤介護福祉士 ⑥社会福祉士
- ⑦知的障害援助専門員 ⑧ヘルパー（1・2級）
- ⑨小・中・高校教諭 ⑩養護学校教諭 ⑪臨床心理士
- ⑫PT（理学療法士）⑬OT（作業療法士）
- ⑭その他（ ）

| 回 答 欄 | |
|-------|------|
| 順 位 | 項目番号 |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |

3. 地域福祉を担当する職員にこれから学んで欲しいことはどんなことですか。一番必要と思われるものから順に3つを選んで、その番号を右の回答欄にご記入ください。その他を選んだときはその番号⑨を回答欄に記入し、資格名を1つだけ下の括弧内にご記入ください。

※回答欄が、①～⑧のいずれかで埋まったときは⑨は書かないようにしてください。

- ①障害への理解
- ②療育・援助技術について
- ③介護・接遇など利用者へのサービス業務について
- ④医療について
- ⑤制度・施策について
- ⑥ケアマネジメントについて
- ⑦個別援助（計画）について
- ⑧危機管理について
- ⑨その他に学ばせたい事項があったらご記入ください。

| 回 答 欄 | |
|-------|------|
| 順 位 | 項目番号 |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |

全体を通して、その他にご意見があったらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

平成 13 年度厚生労働省障害保健福祉総合研究
知的障害者施設における援助システムに関する研究

主任研究者 楠本 欣史
平成 14 年 3 月 31 日発行

編集 国立コロニーのぞみの園
印刷 朝日印刷工業株式会社
